

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期久留米市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県久留米市

3 地域再生計画の区域

福岡県久留米市の全域

4 地域再生計画の目標

久留米市の総人口（国勢調査人口）は、2005年の30万6,434人をピークに減少しており、住民基本台帳によると2025年には299,539人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口が260,912人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は、減少傾向にあり、2025年には39,595人となる一方、老年人口（65歳以上）は2025年には84,652人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1996年の203,975人をピークに減少傾向にあり、2025年には175,292人となっている。

自然動態をみると、出生数は1973年の4,958人をピークに増減を繰り返しながら減少し、2024年には1,999人となっている。その一方で、死亡数は2024年には3,824人と増加傾向が続いており、出者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲1,825人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2024年には転入者（12,609人）が転出者（11,639人）を上回る社会増（970人）であった。しかし、日本人の年代別では、20代から30代前半の若い世代の転出超過が続いている。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、若い世代の転出者の増加等が原因と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域経済の縮小と日常生活圏の持

続性の低下、産業における労働力の不足等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、人口減少のスピードを緩和しつつ、当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていく。また、魅力ある職場の創出や結婚・出産・子育て・教育環境の充実など、若者や女性に選ばれる魅力的で、働きやすく、暮らしやすいまちづくりを進め、転出超過傾向が続く大都市圏からの転入者の増加に取り組んでいく。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、地方創生に資する事業の実施を通して目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 安心して働き、暮らせる地域をつくる
- ・基本目標 2 稼ぐ力を高め、地域経済を成長させる
- ・基本目標 3 久留米市への新しい人の流れをつくる
- ・基本目標 4 広域拠点の役割を果たす

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	住み続けたいと思う市民の割合	76.8%	85.0%	基本目標 1
イ	製造品出荷額	3,932億円	4,429億円	基本目標 2
ウ	農業算出額	310億円	358億円	
エ	大都市圏からの転入者数(5年間 平均)	3,424人	3,600人	基本目標 3
オ	観光入込客数	535万人	600万人	
カ	久留米広域連携中枢都市圏の圏 域人口	44.7万人	43.6万人	基本目標 4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 及び 5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

久留米市まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 安心して働き、暮らせる地域をつくる事業
- イ 稼ぐ力を高め、地域経済を成長させる事業
- ウ 久留米市への新しい人の流れをつくる事業
- エ 広域拠点の役割を果たす事業

② 事業の内容

ア 安心して働き、暮らせる地域をつくる事業

仕事と家庭の両立や女性が活躍できる働きやすい職場環境の整備促進をはじめ、増加する外国人住民など多様な人々が共生できる地域づくりや、子ども・若者が健やかに成長できる環境の充実、中心拠点と地域の生活拠点が相互に補完し合うネットワーク型のコンパクトな都市づくりを進めるとともに、けが・事故の予防や地域防災力の向上など、安心して働き、暮らせる地域をつくる事業

【具体的な事業】

- ・産学官金労の連携による学生・若年者の地元就職
- ・仕事と家庭を両立できるワーク・ライフ・バランスの促進
- ・流域のあらゆる関係者が協働で取り組む流域治水の充実・推進
- ・セーフコミュニティ活動による安全・安心のまちづくり
- ・居住空間の集積に向けた拠点駅周辺の市街地整備の推進
- ・官民連携による持続可能な鉄道やバスなどの交通体系の形成
- ・固定的性別役割分担意識の解消とジェンダー平等の意識づくりに向けた啓発、教育の実践

- ・市民活動への参加意欲を高め、活動を促進するための仕組みづくり
- ・生活情報・行政情報の多言語化や「やさしい日本語」使用によるコミュニケーションの支援
- ・こども・若者の意見表明と社会参画の機会確保
- ・家庭の状況やこどもの成長・発達段階に応じた切れ目のない子育て支援の充実
- ・学力の保障と向上に向けた総合的な取組の充実 等

イ 稼ぐ力を高め、地域経済を成長させる事業

医療をはじめ、ゴム、バイオ、自動車関連、県内最大の農業産出額を誇る農業など、久留米市の強みを活かした産業振興・競争力強化、将来の市場拡大が予測される産業の育成・集積など、地域の稼ぐ力を高め、地域経済を成長させる事業

【具体的な事業】

- ・地域経済をけん引する企業への成長に向けた支援
- ・バイオ産業の拠点化推進による新産業の創出
- ・産業集積の受け皿となる新たな産業団地の整備
- ・先端技術を活用したスマート農業や気候変動に対応した農業の推進
- ・認定農業者の育成や集落営農組織の法人化など基幹的な担い手の経営力の強化
- ・農業体験など地域資源を活用した関係人口の拡大 等

ウ 久留米市への新しい人の流れをつくる事業

中心市街地に経済や交通、居住空間、人の交流などの都市機能が集積した質の高い魅力ある都市空間を創出するとともに、戦略的なプロモーションを通じて、久留米ならではの魅力を効果的に発信、自然や四季のイベントをはじめ、文化芸術、スポーツ、歴史遺産などの豊富な地域資源を活かして、国内外からの観光客を呼び込むとともに、地域内外の人材の交流・循環の促進など、久留米市への新しい人の流れをつくる事業

【具体的な事業】

- ・JR久留米駅周辺や西鉄久留米駅周辺の拠点機能の強化
- ・広域的な求心力を備えた正源氏公園の整備

- ・久留米シティプラザや久留米市美術館などの文化施設の活用や地域、学校などと連携した鑑賞・体験機会の充実
- ・年代や障害の有無等にかかわらず、誰もが身近にスポーツを楽しむ機会の充実
- ・史跡筑後国府跡の継承に向けた整備・活用
- ・くるめの魅力を発見、再確認するインナープロモーションの展開
- ・様々な媒体や手法を通じた久留米の情報に触れる機会の提供
- ・中心市街地や地域商業エリアでの商業機能の維持・活性化
- ・地域資源を活かした魅力的な観光コンテンツの充実 等

エ 広域拠点の役割を果たす事業

久留米市は連携中枢都市として、久留米広域連携中枢都市圏を形成し、「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「生活関連機能サービスの向上」の分野において連携事業に取り組み、「住み続けたい、暮らしてみたい、訪れてみたい」と支持される広域拠点の役割を果たす事業

【具体的な事業】

- ・拠点駅やスマートインターチェンジなどを活かした幅広い波及効果をもたらす地域の核づくり
- ・地域全体の成長・発展に向けた近隣自治体との連携の推進 等

※なお、詳細は第3期久留米市地方創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

750,000千円（2026年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者や市民団体等が参画する検証体制を設置し、効果検証する。翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本市公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

令和8年（2026年）4月1日から2031年3月31日まで